

三沢市立三沢病院の外科実習を終えて

弘前大学医学部医学科 5年 西野博喜

2023年6月5日から6月30日までの4週間、外科実習をさせていただきました。弘前大学の実習では開腹手術をほとんど経験することができていなかったため、開腹手術を見学できるよい機会だと思い、実習前から楽しみにしていました。また、事前情報として手技をいくつかやらせていただけたと聞いていたため、それも楽しみの一つでした。

実習は、朝回診をして手術を見学するというのが毎日の流れでした。朝回診では、患者のガーゼ交換や抜鉤、ドレーン抜去などを行います。できることは率先してやるように先生に言われましたが、最初はどのタイミングで何をするか分からず、何もできずにいました。徐々に慣れてくるだろうと思って過ごしていましたが、何日経っても分かりませんでした。このままではまずいと思い、先生方にアドバイスをもらいやっと気づくことができました。大事なことは回診に慣れることではなく、患者1人1人の状態を把握し、考えることでした。手術後何日経ったか、ドレーンの排液量はどれくらいか、創部はどうなっているかなどを確認し、抜鉤できそうか、ドレーン抜去できそうかを考えます。そうすることでこの患者は今日〇〇するかもしれないから病室に入る前に手袋をしてベッドサイドでは前の方に行こうと準備し、行動できるようになりました。



手術では、楽しみにしていた様々な腹部の手術を見ることができました。それだけではなく、鉤引きや埋没縫合、カメラ持ちなど手術に関わらせていただきました。さらに、診療科の垣根を越えて産婦人科や泌尿器科の手術も見せていただき、想像以上に満足いく実習となりました。手術場での目標は、カメラ操作や埋没縫合を1ヶ月の間に上手くできるようになることでした。カメラ操作は回を重ねる度に上手くなっていくのを実感していましたが、埋没縫合は何度やっても上手くできませんでした。練習キットで何度も練習し、実習後半では小さな傷口は上手く縫えるようになりましたが、少し傷口が長くなると上手く縫えませんでした。この期間中にコツを掴みたいと思っていましたが、最後までコツを掴みきれずに終わってしまい、心残りとなってしまいました。

この実習期間中は、新しいことの連続でとても充実した毎日を過ごさせていただきました。一方で、教わったことをできるようになろうと悩んだ日々でもありました。悩み考えてできるようになったこともあれば上手くできるようにならなかったこともありましたが、どちらも貴重な経験となりました。できるようになったものはそれを忘れず、できなかったものは今後の課題としてできるようになるまで精進していきたいと思えます。

最後になりましたが、懇切丁寧に教えていただき、時には相談にも乗っていただいた外科の先生方並びに、手術に誘っていただいたり気にかけてくださった他診療科の先生方、そして優しくサポートして下さった看護師の皆様、1ヶ月の間大変お世話になりました。お陰様で1ヶ月間気持ちよく実習することができました。また、機会がありましたらよろしくお願いします。

2023.6.5～2023.6.30